



校長室だより

令和6年度

11月14日

NO. 33

地域の歴史を守り作ってきたもの…感謝の修学旅行



奈良の朝／
東大寺に向かう道



黄金を堪能



清水の舞台より…



歴史の門に臨む



京料理を堪能



歴史を見上げる／東大寺



最古に出会う
元興寺



京の町を望む…八坂より



猿沢の夜



いざ! 入城
／二条城

秋の朝の爽やかな日差しが、奈良の野を輝かせます。かすかに鹿の鳴き声が、朝の目覚めのように静かな東大寺の中に響きます。まるで天平の時から、時間が止まったままのようです。袈裟を着たお坊さんが、連れ立ってお寺へ向か姿からは、平和を願う僧侶の思いが昔のまま、長い時を経て伝わってくるようです。

現在は国宝館として蘇った興福寺の食堂（僧侶が集まって食事をした場所）の中に、静寂に、それでいて威厳を保ち立つ仏像たちも、現在までの永遠の時を見つめてきたことでしょう。仏師（彫刻師）らがノミに込めた思いもまた、見る人に伝わります。

そんな奈良の昔、京都の歴史も、これまで自然と受け継がれてきたものではありません。金閣寺は一九五〇年の焼失から五年後再建され、清水本堂は何度も罹災し、現在のもと徳川家光の命で再建されました。東大寺金堂も二度の火災を経て江戸時代に再建されたように、京都・奈良のほとんどは、それぞれの時代の人々の強い思いによって支えられ、作られ守られてきたと言えます。

お昼ご飯を食べた京都、堺萬のおかみさんは、「京都の文化である京料理を小学生にも味わってほしい」と普段小学生には味わえない料理を食べさせてくれました。一日目のタクシー研修のガイド、瀬戸さんは京都の隅々までを知り、わかりやすく教えてくれました。二日目、元興寺の案内の人も見どころを熱く語り、「また来てね」と笑顔で見送ってくれました。現在もこうした、わが地域や歴史に誇りをもち、様々な時代の中でも地域を支え、守る人々によって、歴史や地域は受け継がれていきます。

歴史は出来事だけでなく、そこに生きた人々の思いを知ることが大切であると感じられました。解散式で「歴史や地域の良さを知ることができた」と語る子供たちにとって、修学旅行は、自分の地域についても見つけ直す良い機会になったことと思います。

・2日とも、天気も良く、素晴らしい修学旅行になりました。ご支援、ありがとうございました。

【修学旅行行程】□1日目(11日)…金閣寺→堺萬(お昼)→二条城→清水寺

□2日目(12日)…東大寺→二月堂・三月堂→興福寺→グル TALO(お昼)→元興寺